



《NEWS》

お知らせ!

小学生、中学生による体験学習

今年度は佐倉市立王子台小学校、根郷中学校、南部中学校、四街道市立旭中学校が、当センターにおいて体験学習を行いました。体験した仕事内容は、佐倉市に所在する宮内井戸作遺跡において、実際に縄文時代の遺構を掘る作業でした。慣れない作業で疲れたようですが、土器の他に土偶を掘り出した生徒もいて、生きた資料に触れるいい機会だったようです。



《ご案内》

企画展「南羽鳥中岫第1遺跡E地点出土遺物展」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成14年1月15日(火)より6月28日(金)まで開催しています。この遺跡は成田市に所在した縄文時代前期の集落跡で、「人頭形土製品」をはじめ、貴重な遺物が多数出土しました。特に墓と考えられる土坑からの出土遺物は、平成13年3月30日付けで「千葉県有形文化財」に指定されました。今回の企画展では指定された出土遺物すべてを展示していますので、是非ご来場ください。土日祝閉館、入場無料。



《発掘中の遺跡》
2～3月予定

がんばってます!

- 成田市
 - 南三里塚五十石込遺跡(近世)
 - 台方下平I・II遺跡(縄文～奈良・平安時代)
- 佐倉市
 - 井野長割遺跡(縄文時代)
- 四街道市
 - 前原No.-2遺跡(縄文時代)
 - 木戸場遺跡(縄文時代)
 - 出口遺跡(古墳時代～奈良・平安時代)



出口遺跡発掘調査風景

- 八街市
 - 柳沢牧文違野松里野馬土手(近世)
- 栄町
 - 向台遺跡(古墳時代)

こっちゃんも やってます!

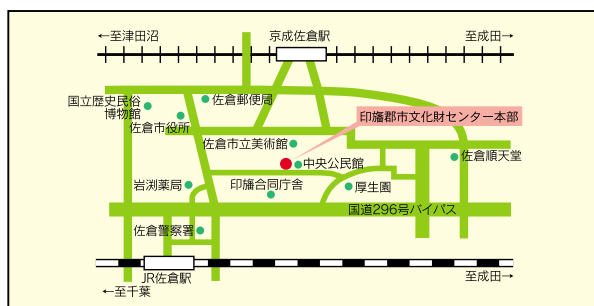
《室内作業》

本部

- 佐倉市錦木町198-3 TEL043-484-0126
- 内田端山越遺跡(窠跡)(佐倉市、平安時代)
- 白井台大名宿遺跡(第4次)(佐倉市、弥生時代～近世)
- 六崎貴舟台遺跡(第10次)(佐倉市、縄文時代～中世)
- 大塚塚西台2号墳(佐倉市、古墳時代)
- 南作遺跡(四街道市、縄文～奈良・平安時代)
- 柳沢牧文違野松里野馬土手(八街市、近世)
- 成田事務所
 - 成田市飯仲字台畑330-1 TEL0476-26-7208
 - 南園護台遺跡第3地点(成田市、奈良・平安時代)
 - 大久保遺跡(印西市、古墳～奈良・平安時代)
 - 龍腹寺裏遺跡(本荘村、旧石器時代～中世)
 - 郷野遺跡(四街道市、弥生時代)
 - 権現堂遺跡(四街道市、弥生時代～中世)

《おしらせ》

上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 ☎ 043(484)0126(代) 043(485)9871 http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp/li

FIELD BOOK



財団法人 印旛郡市文化財センター



佐倉市 白井台大名宿遺跡



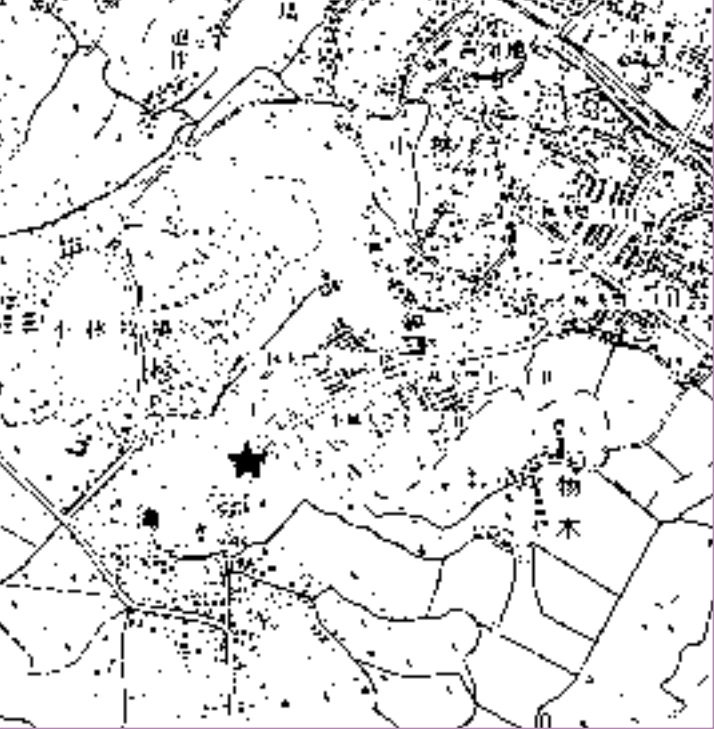
第10号竪穴住居跡炭化材出土状況



白井台大名宿遺跡は、京成電鉄白井駅の西約1km、印旛沼南岸に面する標高約2.5mの台地上に位置します。今回の調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒、古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡9軒、その他中近世の掘立柱建物跡、井戸などが検出されました。

ここで紹介するのは、奈良・平安時代の第10号竪穴住居跡です。これは火事にあった痕跡のある住居で、特に火災住居と呼ばれるものです。住居内は火を受けて赤く焼けており、床面からは焼け落ちた柱などが炭化した状態で出土しました。住居の壁の崩落を防ぐ壁柱や、主柱の一部が立ったままの状態で見つかり、また屋根材の一部が放射状になっているのがわかりました。これらは住居の上屋構造を知る手がかりになります。火事の原因は、失火などの不慮のものと、何らかの理由によって故意に火を放ったことなどが考えられます。不慮の火事は住んでいる人にとって大きな災害ですが、その時点で使用していた土器などがそのまま残っていることもあり、当時の生活の一端を知ることができます。しかし、この第10号竪穴住居跡の場合は、土器など遺物の出土がほとんどありませんでした。これは必要な家財道具を持ち出し、いらぬものだけを残して火を放ったと考えられます。そして他の土地へ移り住んでいったのかもかもしれません。

本埜村龍腹寺裏遺跡



第1図 遺跡位置図



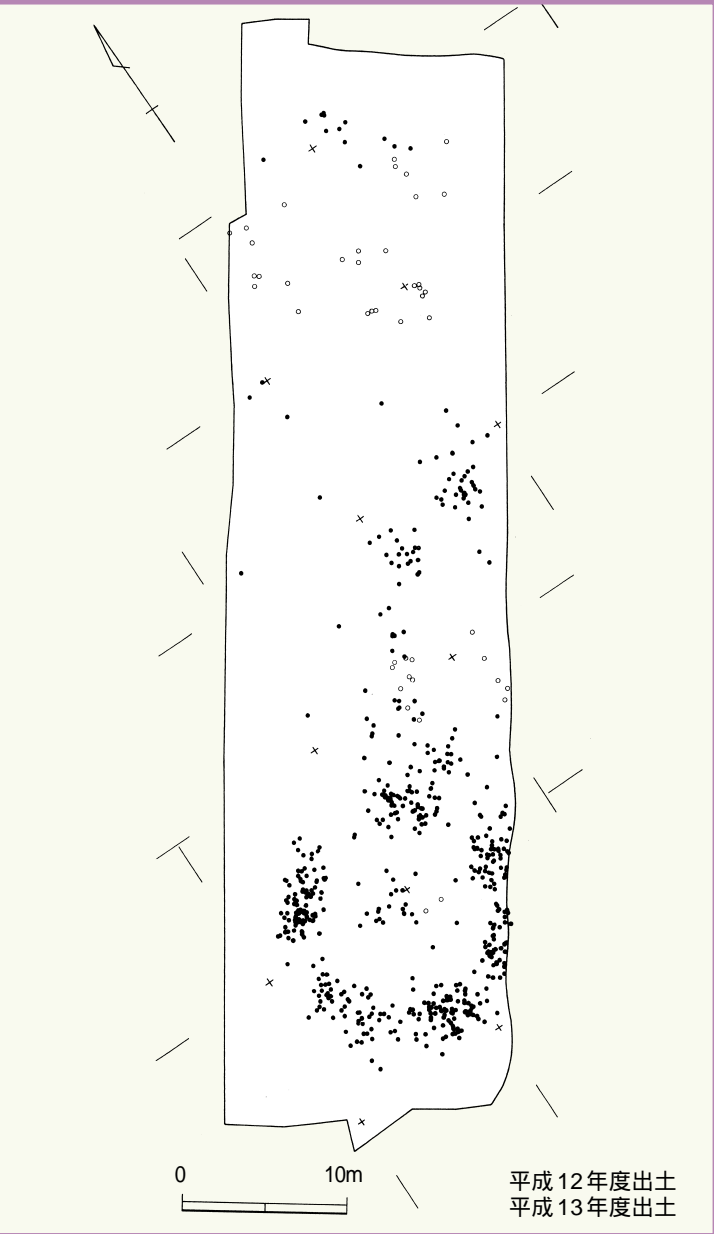
環状ブロック群



写真1 上 刃部磨製石斧
下 打製石斧



写真2 上・中 台形様石器
下 楔形石器
右下 石刃



第2図 出土石器分布図

今年度と昨年度の調査成果を併わせて紹介します(フィールドブック vol.7も併せてご覧ください)。龍腹寺裏遺跡は印西市と本埜村の境近くにあり、JR 小林駅から緩やかな坂を上がっていった標高約29mの台地上に位置します(第1図)。日当たりのよい南東側の緩やかな斜面で生活が営まれ、すぐ近くには谷が入り、眼下には低地が広がり居住するには絶好な場所であったといえます。そのような場所で環状ブロック群が形成されたのです。環状ブロック群とは複数の石器のまとまりがドーナツのように環に巡るものをいいます。そして中心部分にブロックがあるものについては典型例とされています。龍腹寺

裏遺跡は直径約20mで、6つのブロックで環を形成し、中心に1つのブロックをもっています。

今年度と昨年度の調査結果を併わせると、遺跡の北側にもそれらしいものがあるのがお分かりになるでしょうか(第2図参照)。南側の典型的なものに比べると規模は小さいですが、もしかしたら環状ブロック群なのかもしれません。

出土した石器の中に刃部磨製石斧(打製石斧の刃となる部分を磨いたもの)や台形様石器などが含まれていました(写真1,2)。特に環状ブロック群の中で出土した石器には、石斧と同じ石材の片が多く含まれていたこ

ともあり、それらを製作する場所であったと考えられます。すべての環状ブロック群が石器製作の場に終始していたわけではなく、いろいろな意味があったと考えられます。まだ実態が十分に解明されているわけではないため、今回の発見は印旛沼周辺において重要な位置を占めることになるでしょう。

なぜ石器のまとまりが環状となって検出されるのか、環状を形成する遺跡としない遺跡にはどのような違いがあり、そしてどのような関係にあるのか。考えただけでも興味の尽きることはありません。今後の整理作業が楽しみです。